

令和元年6月14日現在

機関番号：12611

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K16841

研究課題名(和文) 上方落語を用いた近現代京阪方言の総合的研究

研究課題名(英文) A comprehensive study of early modern and modern Keihan(Kyoto and Osaka) dialect using Kamigata Rakugo

研究代表者

竹村 明日香 (Takemura, Asuka)

お茶の水女子大学・基幹研究院・准教授

研究者番号：10712747

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、戦前の落語同人雑誌『上方はなし』に掲載された五代目笑福亭松鶴の速記落語56作品をコーパス化し、「上方はなしコーパス(試作版)」として一般公開した。このコーパスは全文検索システム「ひまわり」上で作動するようになっており、一般の人々にも使いやすい簡便な仕組みになっている。テキスト本文だけでなく、ルビ、話者、地名なども検索でき、原本画像も表示することができる。研究発表は合計3回行い、知名度の普及に努めた。また論文1本の他に、複数の大学の講義でも解説を行い、京阪方言の歴史的研究に有益であることを述べた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまでのコーパスには、近代以降の方言を扱ったものがほとんどなく、利用システムも研究者向けの難解なものが多かった。しかし本研究で簡便な「上方はなしコーパス」を作成したことにより、「日本語歴史コーパス」に欠けていた近代京阪方言の話し言葉(上方落語)を容易に検索できるようになった。「上方はなしコーパス」は、研究者だけでなく落語家や落語愛好家にも利用しやすい仕組みになっており、戦前の上方落語を知る上で非常に有用なツールである。日本語の方言研究にだけでなく、上方芸能史の研究にも十分役立つものであるといえる。

研究成果の概要(英文)：In this study I created a series of corpus from 56 stenographic Rakugo stories by Shofuku-tei Shokaku V that were published in a pre-war coterie Rakugo magazine, "Kamigata-Hanashi". The corpora are open to the public as "Kamigata-Hanashi Corpus (prototype edition)".

This corpus series works with a full-text search system "Himawari", which is easy for the general public to use because of its simple structure. User can search not only texts themselves but also ruby characters, speakers, and placenames. They can display the original image of the original text, too. I conducted three research presentations to publicize the corpus series, followed by one published paper. In some universities I gave lectures to demonstrate how it is useful for historical study of the Keihan (Kyoto and Osaka) dialect.

研究分野：日本語学

キーワード：上方落語 方言 日本語学 速記 京阪方言 笑福亭松鶴 コーパス

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

上方落語は、従来、芸能史と方言史の双方から研究が行われてきた。殊に方言史では、1990年代から積極的に上方落語を用いる研究が行われてきた。しかし方言史研究では、文法に偏って研究が行われてきており、それ以外の観点、例えば、語彙研究や本文テキストのコーパス化についてはほとんど実施されていない。近年では落語ブームもあって、世間でも上方落語に対する関心が高い。こうした関心に応えるためにも、京阪方言（とくに戦前の上方落語）の語彙研究と、落語本文のコーパス化は急務の課題であると考えられる。

そこで本研究では、戦前の上方落語家・五代目笑福亭松鶴が落語同人誌『上方はなし』に掲載した自身の速記落語 56 作品をコーパス化することを目指し、それらをもとに方言語彙などの総合的な研究を行うこととした。

2. 研究の目的

本研究の目的は、主に以下の二点である。

一つ目は、現在では原本が入手しにくい上方落語の資料をテキストデータ化して、日本語研究者と芸能研究者、及び一般の落語愛好家が利用できるコーパスを作成することである。特に、『上方はなし』の速記落語をコーパス化した『上方はなしコーパス』を作成することを目指した。このコーパスは、従来のコーパスにありがちな高度に形態論情報が付加された使いにくいものではなく、あくまで本文の検索を第一とする、簡易なシステムにすることを狙った。このような簡易なシステムにすることで、一般人にも使いやすくし、使用の普及率を上げるためである。

二つ目の目的は、上記のコーパスを用いて、自立語や、慣用句・ことわざなどの京阪方言語彙の語史研究を行い、近代から現代にかけて生じた変化の諸相を明らかにすることである。文法研究が中心であった上方落語を、語彙史の観点から見直すことで、その資料の有用性を明らかにすることを目指した。

3. 研究の方法

まず、上方落語資料（主に速記本）の所在調査を行い、明治から昭和の間に刊行された資料数を把握し、原本をコピーした。『上方はなし』に関しては、大阪府立中之島図書館に原本が多数所蔵されていたため、複数回赴いてコピーをした。その他にも、大阪府立中央図書館、国立文楽劇場図書室、伝統芸能情報館、国立国会図書館東京本館なども訪れて、上方落語の資料を収集・コピーした。

『上方はなし』の原本画像は、コーパスデータに付随して web 上で見られるようにするため、本務校の附属図書館の協力を得て、機関リポジトリに画像を登録した。『上方はなしコーパス』のデータ化には、大学院生や学部生のアルバイトを雇い、3年間の期間を費やして、編集作業を行った。またこれらと並行して落語に見られる方言語彙や、慣用句・ことわざ、オノマトペ、音訛、文法などの調査も行った。

4. 研究成果

研究成果として、目標としていた『上方はなしコーパス』を、試作版ながらも完成させた。また、論文 1 本と研究発表 3 件も行った。この他にも、複数の大学で、五代目笑福亭松鶴の速記落語の有用性と、『上方はなしコーパス』の活用法について説明を行った。

完成した『上方はなしコーパス（試作版）』は、2019年3月16日に大阪淀屋橋にて公開発表会を行い、研究者や一般人に向けて利用方法を解説した。同日、コーパスデータの配布も行った。

上記のコーパスは、国立国語研究所が開発した本文検索システム「ひまわり」のシステム上で作動する。本文テキストやルビなどが簡便に検索できる上、新字体で表示されるため、研究者のみならず一般人も利用しやすい仕様となっている。落語内の話者や土地情報なども検索できるので、利用者は本文テキスト以外の情報も活用することができる。本文テキストに付随して『上方はなし』原本の画像も表示されるので、語彙・文法のみならず、表記研究にも有用である。このコーパスは、現役の上方落語家・桂紋四郎氏から様々な助言を受けつつ作成したため、現役の演者にとっても実用性の高いものとなっている。

論文では、上方落語に現れる「手桶番」という語の語源説について追究した。研究発表では、本コーパス作成の進捗状況を報告したほか、コーパスを用いた方言語彙・慣用表現、文法などの調査結果について報告した。現在、これらについては論文化を進めている途中である。

また、上記の他に、帝京大学やお茶の水女子大学の学部講義授業において、五代目笑福亭松鶴の速記落語や『上方はなしコーパス』の仕組みと活用法について解説し、学生らに普及活動を行った。

現在（2019年6月時点）も、『上方はなしコーパス（完成版）』に向けてデータの修正を加えており、来年度の秋には他の日本語学研究者・落語家も交えて完全版の公開発表会を催す予定である。さらに本コーパスについては、2020年刊行予定の『コーパスによる日本語史研究 近代編』（田中牧郎・橋本行洋・小木曾智信編、ひつじ書房）という書籍において、「『上方はなし』コーパス 近代京阪京方言の速記落語」（竹村明日香執筆）という論文でコーパスの構造や仕組みが紹介される予定になっている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 1 件)

竹村明日香(2017)「月経を表す『手桶番』の語源 上方落語『鮑のし』の語源説を起点として」『国語語彙史の研究 三十六』、pp.285-303

〔学会発表〕(計 3 件)

竹村明日香(2019)「『上方はなし』コーパス(試作版)の使い方」『上方はなし』コーパス公開発表会 五代目笑福亭松鶴の落語を検索する、2019年3月16日、コンベンションルーム AP 大阪淀屋橋

竹村明日香(2019)「『上方はなし』コーパス(試作版)を使った調査例」『上方はなし』コーパス公開発表会 五代目笑福亭松鶴の落語を検索する、2019年3月16日、コンベンションルーム AP 大阪淀屋橋

竹村明日香(2017)「上方はなしコーパス作成の現状と活用例」国立国語研究所共同研究プロジェクト「通時コーパス」活用班 近世・近代グループ 文体・資料性グループ 合同研究発表会、2017年12月16日、明治大学

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年:

国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

「『上方はなし』コーパス(試作版)」のデータを USB メモリに入れて希望者に配布した(2019年3月16日)

お茶の水女子大学の学部講義授業「日本語史特殊研究」(担当教員:竹村明日香)の授業内において、「上方落語とことばの世界」と題したイベントを開催し、「『上方はなし』と方言研究」(発表者:竹村明日香)という題にて、五代目笑福亭松鶴の速記落語の特徴と、その落語を用いたコーパスの有用性について説明を行った(2018年10月25日)

帝京大学の学部講義授業「近代日本文学研究」(担当教員:細田明宏)にゲストスピーカーとして招待され、上方はなしコーパスについての解説を行った(2016年12月8日)

6. 研究組織

(1)研究分担者 なし

研究分担者氏名:

ローマ字氏名:

所属研究機関名:

部局名:

職名:

研究者番号(8桁):

(2)研究協力者 なし

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。